

「提出締め切りの季節」

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部
附属図書館長
細井 和彦

師走になると別に慌ただしくもないのに、なぜかそわそわした気分させられる。学内でも『卒業論文』/『修士論文』の提出方法についてなどといったアナウンスが繰り返され流される。論文提出を控えた学生諸君、大学院生諸君にとっては実に慌ただしい、せっぱ詰まった季節である。かくいう筆者も、学生時代から現在に到るまで、この「締め切り」に追われ続けている。

「論文執筆には王道なし」とは、誰が言ったのか記憶が定かではないが、名言である。紙（現在は PC の word 画面）とにらめっこしていても文字数が増えるわけでもないから、まずは「材料」を探さねばならない。デジタル化が進んでいる昨今でも、「検索」して集める行為に非常に多くの時間を費やす（アナログ時代は図書館の文献 card を一枚一枚くくって探したものだ）。ただ検索エンジンをやみくもに検索しても、適格な「材料」には到達できない。「検索」には検索エンジンではなくて、論文検索 Database を使うとか、「検索」の「keyword」の選定方法について、基本的な知識が必要だからである。「材料」には「資料」「データ」「史料」「文献」など、研究分野によってさまざまな呼び方がある。

しかしながら、文献検索の手法は教えられてもなかなか習得できる代物ではない（実は筆者は教授された経験がない）。経験を積み重ねて少しずつ自分なりに理解が進んでいく。「急がば回れ」「千里の道も一歩から」の世界である。

ほぼ一年前、国立国会図書館のレファレンスを公開した書籍が出版された。『調べる技術』がそれである。副題は「国会図書館秘伝のレファレンス・チップス」、著者は小林昌樹氏で、長年国会図書館でレファレンス業務に従事していた professional である。本書『調べる技術』は反響が大きく、各所で書評が書かれている。本書は、「人文社会が専門」もしくは「質問するのが苦手」、「調べたくても図書館には疎遠」な人向きということである。筆者には、それなりに自己流で「調べる」ことをやっているが、「もっとよい方法はないのか」と悩んでいる人向きであるように感じられる。

各章の内容で特に興味を惹かれるのは、第 5 講「見たことも、聞いたこともない本を見つけるワザ」である。「えっ、そんなことができるのか」と思うが、それができてしまうと言うのだ。検索のテクニックには驚かされる。ほかにも「ググる」こと応用（第 1 講）、明治以降の新聞記事「合理的」検索法（第 6 講）、「Google ブックス」の賢い使用法（第 9 講）が面白い。なかでも第 10 講「NDL 次世代デジタルライブラリーは使える」は実践的に読んで是非有効に利用してみたい。日頃、しばしば NDL サーチ、デジタルコレクションを検索して史料を収集するのだが、やはり国家経営の図書館ともなると公開資料の膨大さと公開の速度はとても魅力的なのである。

結論から言えば、本書のような書物は読みながら実践してみると効果的である。また読む必要がある章を読めばよく、最初の頁から読む必要はない。先祖返りになるが、最後は自分で経験して身につけるしかないのである。

筆者の研究分野でダイレクトにすぐに利用可能な書物が、漢字文献情報処理研究会編『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』である。同研究会はこれまでも漢字のデジタル化問題やデジタル化するDatabase 関する啓蒙書を何冊も提供してきたが、今回のマニュアルは現状における集大成と言える。漢字圏の古代から現代までの調査方法が網羅されており、各章が「〇〇について調べる」という表題で明示されていて、すぐに目的の調査方法に行き着くことができる。中国分野を専門とする人であれば有用な書物である。

卒論/修論を執筆するには、日頃から「ひらめき」「参考になりそうなこと」を記録しておくことが必要だろう。面倒くさがらずに蓄積しておくことが、「新しい発見」や「独自性（オリジナリティー）の創出」につながるし、論点の設定、論文の構成で悩むこともなくなる。何でもない日々の積み重ねが大きな獲物を獲得する手段になるのであるが、これがなかなか実践が難しい。はっきり言って、面倒くさいのである。そんな問題を解決してくれるのが、野口悠紀雄『「超」メモ革命』である。野口氏は言わずと知れた経済学者で業績も多数ある。また『「超」整理法』シリーズの著者、「超」整理手帳の開発者としても著名である。「超」整理法は紙ベースのアナログ時代にどのように情報（書類）を合理的に整理するかに主眼をおいていた。あの「押し出しファイリング」は筆者も実践してみた経験がある。「ポケット一つの原則」は今でも論文執筆時に実践している。

今回はアナログ時代からデジタル時代へと移行する現在に見合った情報整理活用法として、「超」メモを提唱している。「超」メモとは「魔法のようなメモのシステム」で、「必要な情報を引き出して活用できるようにする仕組み」だと野口氏は言う。その仕組みの作り方を説明しているのが本書である。発想をメモしてもそのままにしておくで忘れてしまうし、紛失してしまう場合もある。そのようなロスをしないため、スマホ一つあればできるのがこの「超」メモによる情報管理の仕組みである。今時誰もが「肌身離さず」握りしめているスマホだけでできる情報管理。それはどのような方法なのか。詳しくは本書を手にとって、実践してもらいたい。

今回紹介した書物はいずれも現在論文を必死に執筆中の学生諸君には、参照するには時間切れの品々である。来年、再来年執筆しなければならない諸君には役立つ情報ではないだろうか。いずれにしても、教えてもらったらさっそく自分で試しにやってみなければ習得はできない。試行錯誤してでも自分で苦労すれば、なんとなくでも理解をすすめることができる。現在、情報と情報システムは日進月歩である。技術（technology）は常に新しくなるが、技術を便利に使いこなせるのかは、われわれ人間の問題である。技術に振り回されないためにも、自分なりの向き合い方が必要になっている。

《参考書籍》

小林昌樹『調べる技術 国会図書館秘伝のレファレンス・チップス』（皓星社・2022年）

漢字文献情報処理研究会編『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』（好文出版・2021年）

野口悠紀雄『「超」メモ革命』（中公新書ラクレ・2021年）





Library Information

相互貸借（ILL）について

『卒論のために読みたい論文があるけど、公開されていないので読めない。』

『うちの図書館にはないけど、他の図書館にはある図書が読みたい。』

と思ったことはありませんか？！

ぜひ図書館にご相談ください^^

鈴鹿大学はILL加盟館です。ILLとは、ご自身で入手できない文献を他の図書館などの協力によって入手することができる相互協力サービスのことです。

相互貸借には、文献複写と現物貸借があります。

文献複写：著作権の範囲内でコピーを送付してもらう。

現物貸借：現物を借り受ける。

申込みをしていただいてから約1週間程度お日にちをいただいております。また、複写料や郵送料がかかります。

申込方法は、図書館受付に来て頂くか、担当の先生に相談してください。

- ・12月27日(水)～1月8日(月)まで休館です。
- ・1月12日(金)は臨時休館です。
- ・長期貸出しを行いますので、どうぞご活用ください。

【期間】12月11日(月)～12月25日(月) 【返却日】1月11日(木)



新着図書

地球の歩き方 ディズニーの世界：

名作アニメーション映画の舞台

地球の歩き方編集室/ Gakken



地球の歩き方から、ディズニーの世界が発売されました。ディズニー映画の紹介や、モデルになった国などが紹介されています。

背景を知ることでもた別の楽しみ方が広がりそうですね。ディズニー好きの方はもちろん、これからディズニーを楽しみたい方も楽しく読める一冊です。

ネパールに生きる―揺れる王国の人びと

八木澤 高明/新泉社



ヒマラヤの美しい大自然に囲まれたのどかな暮らし。

そんなイメージとは裏腹に、反政府武装組織マオイスト（ネパール共産党毛沢東主義派）との内戦状態が続き、王国は大きく揺らいでいる。ネパールに通い続ける写真家が、軋みのなかに生きる民衆の等身大の姿を内側から丹念に活写。10年間の取材を集大成した、珠玉のフォト・ノンフィクション。

さむがりやのサンタ

レイモンド・ブリッグズ/ 福音館書店

『さむがりやのサンタ』の魅力は、やはり人間味あふれるサンタクロースのキャラクターと風貌です。



文字は吹き出しに台詞としてほんの少し登場するのみですが、細かく描写された背景のイラストや、おじさんの表情・しぐさから、その人柄が愉快地浮かび上がります。皮肉屋だけど実はやさしい、クリスマスにぴったりな絵本です。

ゼロからの『資本論』

斎藤 幸平/ NHK 出版

『資本論』は誰もがその存在を知らながら、難解・長大なためにほとんど誰もが読み通せない。この状況を打破する1冊。



マルクスの手稿研究で見出した「物質代謝」という観点から、世界的な名著『資本論』のエッセンスを、その現代的な意義とともに丁寧に解説する。

きみのお金は誰のため：

ボスが教えてくれた「お金の謎」と「社会の仕組み」

田内 学/東洋経済新報社

現代の「お金の不安や疑問」を物語で楽しく解説！

ある大雨の日、中学2年生の優斗は、ひょんなことで知り合った投資銀行勤務の七海とともに、謎めいた屋敷へと入っていく。そこにはボスと呼ばれる大富豪が住んでおり、「この建物の本当の価値がわかる人に屋敷をわたす」と告げられる。その日からボスによる「お金の正体」と「社会のしくみ」についての講義が始まる。「お金の本質」がわかると、人生の選択肢が増える！人生も社会も豊かにするお金の授業、開講！



イングランド銀行公式 経済がよくわかる 10章

イングランド銀行・村井 章子 (訳) /すばる舎

イングランド銀行公式の経済の入門書。

経済は私たちの行動の全てに関わって

いるにもかかわらず、多くの人は経済についてよくわかっていないという現状を

打破すべく、1694年設立、イギリスの中央銀行であるイングランド銀行が立ち上がりました。経済を理解できるようになるための10の平易な質問を題材にしてわかりやすく説明。景気、金利、インフレ・デフレ、GDPなどの経済基本用語や、経済危機、貿易摩擦、気候変動など世界が抱えるさまざまな問題を理解するために役立つ、経済入門書の決定版！！ビジネスパーソンの学び直しにも最適の1冊です。



歯がぬけた

中川 ひろたか (著)

大島 妙子 (絵) / PHP 研究所

歯がぬける、歯が生え変わるということテーマに描いた絵本。

ごはんを食べていたら、歯がぬけた。まえからぐらしていただけど、ついにぬけた。この歯、どうしようかな～。歯がぬけた喜びや、歯にまつわるお話などを盛り込み、歯の大切さを学べる一冊。



TOEIC L&R TEST 出る単特急 金の1000問

(TOEIC TEST 特急シリーズ)

TEX 加藤/朝日新聞出版

毎回受験、990点満点の著者が、14年間継続研究の「TEX ファイル」から作成。「出る語彙だけ」の最新、最強の問題集。また、ミリオンセラー「金のフレーズ」の単語をすべてカバー。選択肢も解説もすべて重要情報！朗読音声無料DL付き。スマートフォン対応。





「キラーズ・オブ・ザ・フラワーームーン オセージ族連続怪死事件と FBI 誕生」

デイヴィッド・グラン ・倉田真木 (訳)

国際地域学部准教授 杉浦 恵美子

師走に入り今年も残すところわずかとなりました。何かと気ぜわしい年の瀬ですが、そんな時こそ読書や映画を観て東の間の非日常のひと時を過ごしてみたいでしょうか。

今回紹介する本は、10月20日より世界同時劇場公開された映画『キラーズ・オブ・ザ・フラワーームーン』(KILLERS OF THE FLOWER MOON)の原作となった作品の日本語版で、2018年に早川書房で刊行された『花殺し月の殺人 インディアン連続怪死事件と FBI の誕生』が、改題・文庫化されたものです。原作者は、アメリカ人ジャーナリストのデイヴィッド・グランで、本国アメリカでベストセラーとなり、各種メディアで絶賛され、アメリカ探偵作家クラブ賞をはじめとする賞を受賞しました。

物語は、実話を基に書かれたノンフィクションで、FBI 誕生とその契機となった先住民(ネイティブ・アメリカン)の連続怪死事件が描かれています。舞台は、1920年代のオクラホマ州で、この地に住む先住民のオセージ族とその関係者二十数人が、不審な死を遂げます。容疑者が絞れず、特別捜査官による捜査が開始されますが、事件解明には困難を極めます。この連続事件の裏には、石油が発見され巨額の富を得たオセージ族と彼らの財産(オイルマネー)に目をつけた白人たちの陰謀に人種差別が絡み合っていました。

米国史上で実際に起きた出来事を知ることができ、アメリカ先住民に関する理解を深める上でも参考になる作品です。国際地域学部の皆さんには、是非読んで欲しい一冊です。一読後、映画もご覧になることをお勧めします。

「ウェルビーイングをデザインするーライフスキル教育プログラム小学校低・中学年用」

池田真理子 青山俊美

こども教育学部講師 木村 美来

「ライフスキル」という言葉を聞いたことはありますか。

ライフスキルは「日常生活で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するための心理社会的な能力」と定義され、我が国においては、1980年代ごろから、児童生徒の健全な発達を促し、喫煙・飲酒・薬物乱用を始めとする危険行動を防止することを目的として、多くの研究がなされ、その成果及び有効性を蓄積してきました。

ライフスキルの獲得は、喫煙、飲酒、薬物乱用や早期の性行動などといった、青少年の現在及び将来の身体的健康に直接つながる行動だけではなく、いじめ、暴力、不登校、学業不振など、青少年の知的、精神的、社会的発達を阻害するとともに、情緒的、社会的健康問題の発生につながる反社会的、非社会的行動の未然防止に有効であるとされています。ライフスキルの獲得はまた、上述の思春期の様々な問題行動・危険行動の未然防止に有用だけでなく、ポジティブ行動を促すためにも有用であることが、様々な発達段階における調査研究によって検証されています。

本書は、子供たちが、楽しい体験活動を通じて、「自分が好き」「自分にはやればできる力がある」と感じるといったセルフエスティーム、ライフスキルの育成を目指して作られた授業事例集です。まず「基礎編」においては、ライフスキルの定義やプログラムの構成について詳しく解説されています。次に「実践編」は、基礎的なライフスキル教育の内容であるユニット1、いじめの未然防止に特化した内容であるユニット2で構成されており、学習指導案の形式で示され、指導の流れや準備物を丁寧に示すなど、実践者の立場から様々な工夫がなされています。

教員を目指す皆さん、これから教育実習に行く予定の皆さん、ぜひ本書を手に取り、子供たちが獲得した知識や態度を好ましい行動へと実現するためにはどうしたらよいか、というハテナに対する閃きを得てください。